

Q 一本松駅南口ロータリー
近接に駐輪場を

杉田 すきた
恭之 やすゆき
議員



A 現在、開設に向けて
計画中である

問 北側駐輪場の利用状況は。
答 一本松駅北側の道路の東側と西側に設置しており、合わせて駐輪可能台数は280台である。なお、令和4年度の利用率は49%である。

答 道路東側は、約160㎡で収容可能台数は100台、道路西側は約288㎡で、収容可能台数は180台である。毎年、賃貸借契約を締結し、駐輪場として使用している。

年間賃借料の4年度実績は合計58万4316円である。

問 新型コロナウイルス感染症のほか、春先や夏場の学校や会社の開始時期などによって利用率の上下があると考えている。

問 越生線複線化計画上での東武鉄道所有地の利活用について。
答 東武鉄道では、現在も複線



一本松駅南口駅前交通広場

化を目標としていることから、現状ではその他の用途への利用は難しいと考えている。

問 南口開設に向けた東武鉄道への官民一体の要望活動について。

答 地域住民の要望に基づき市が鉄道事業者と協議を行っていること認識している。

鉄道事業者への官民一体となった要望は、効果的な方法の一つである。



Q ヘルメットによる
交通安全対策について

小川 おがわ
茂 しげる
議員

A 着用率の向上が今後の課題



ヘルメット着用の努力義務化

問 ヘルメット着用の努力義務化について、市の対応は。

答 埼玉県内では、自転車交通事故で亡くなった人のうち、半数以上の方が頭部に致命傷を負っており、ヘルメット未着用者の死亡率は、着用者の2・2倍高い状況である。

市では、自転車事故による被害の軽減には、ヘルメットの着用の推進が極めて重要であるため、これまでも市民の自発的な着用にに向けた啓発を行ってきた。

また、ヘルメット着用の努力義務が全世代へ拡大された以降も、市広報を始め、小学校での交通安全教室、高齢者団体などの集まりや鶴ヶ島清風高校など、

様々な手段と機会を活用した啓発を行っている。

問 自転車利用者へのヘルメット着用促進のための購入補助について。

答 市内では、この2か月間で自転車用ヘルメット未着用の高齢者が運転する重大な死傷事故が2件発生し、1人の方の尊い命が失われている。

このような状況に鑑み、小学生以下の子どもと65歳以上の高齢者を対象とした自転車用ヘルメットの補助制度を創設するための予算を本定例会に提出している。